

知っていますか？

NHK大河ドラマ

おんな城主 直虎のロケ地となった

いなさちようくるめき
浜松市北区引佐町の久留女木の棚田で、

静岡文化芸術大の学生が

お米を作っています。



引佐耕作隊

i n a s a k o u s a k u t a i

く る め き 久留女木の棚田 耕作放棄地再生プロジェクト



久留女木の棚田は、浜松市北区引佐町の北部、標高 250m の山間部に位置します。

「日本の棚田百選」にも選ばれており、美しい景色が広がっています。

2017年度の大河ドラマ「おんな城主 直虎」のロケ地としても注目されました。

一方で、その約 4 分の 3 は耕作放棄地となっています。

そこで、静岡文化芸術大学の学生で「引佐耕作隊」を結成しました。

耕作放棄地の再生、収穫したコメのパッケージデザイン & 商品化、

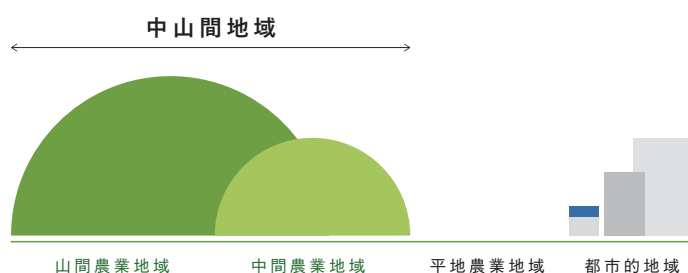
商品化したコメの販売を目的に活動しています。

CHAPTER

01

はじめに

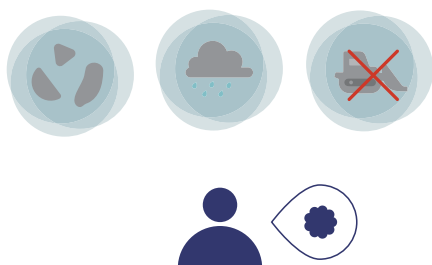
近年、中山間地域において、人口の減少や高齢化が進み、農業の担い手不足が問題となっています。



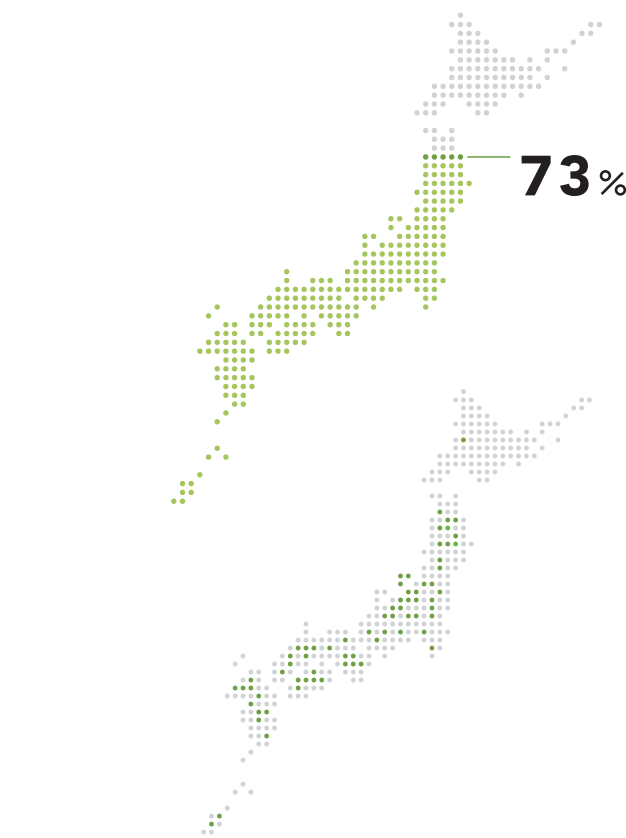
中山間地域とは、「都市的地域」と「平地農業地域」を除いた、「中間農業地域」と「山間農業地域」を指す言葉です。日本の総面積のうち73%は中山間地域にあたります。

中山間地域の大きな特徴は「平地が少ないこと」です。そのため、農産物の生産効率が悪く、「条件不利地域」と呼ばれています。古来より人々は、中山間地域において、工夫して農地を広げようとしてきました。その代表的な例が「棚田」です。棚田とは、傾斜地を利用した階段状の田のことで、日本中に分布しています。

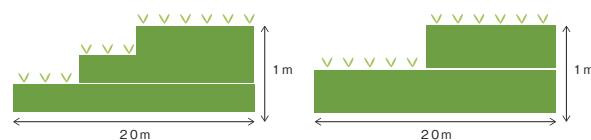
一般的に、傾斜が20分の1以上ある水田を「棚田」と呼んでいます。



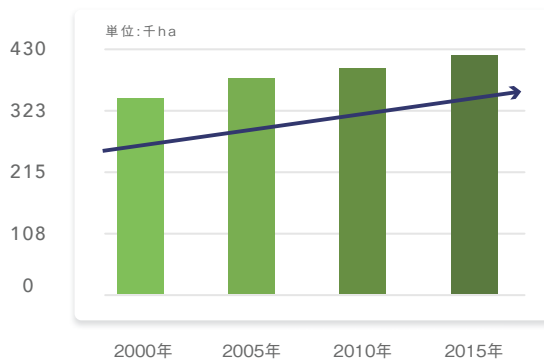
棚田では1枚あたりの面積が小さく、四角形ではない農地もあります。そのため、大型の農業機械を使用したコメ作りが難しく、手作業に頼らざるを得ません。また、傾斜地に農道を通すことが難しいため、細い畦道を通して作業をする必要があります。さらに、傾斜地では、川から用水を引き込み、水を確保することが困難です。よって雨水や沢の水を水



73%



全国の耕作放棄地面積の推移



農林業センサスより

源とするため、天候に左右されやすく、水不足になりがちです。以上のように、棚田におけるコメ作りは、平地の田に比べ手間と時間がかかります。また、小規模な農地であるため、生産量は多くありません。こうして棚田においてコメ作りをやめる農家が増加し、「耕作放棄地」が増えています。

CHAPTER

02

—— 棚田の多面的機能

棚田の役割は、コメを生産することだけではありません。コメの生産に伴い、棚田は様々な機能を発揮します。これらを棚田の「多面的機能」と呼んでいます。棚田の「多面的機能」は主に4つあげられます。

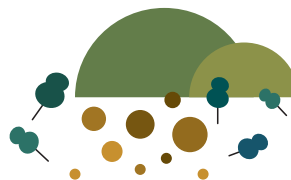
棚田において「耕作放棄地」が増加すると、これらの「多面的機能」が発揮されなくなります。これによって以下4つの問題が発生します。

befor

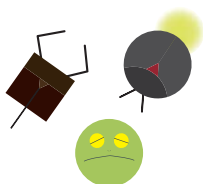
after



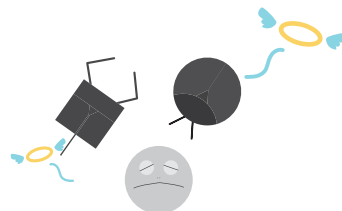
水を蓄えることにより天然のダムとなる



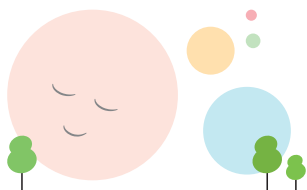
土砂崩れが発生する



多種多様な生き物に住処を提供する



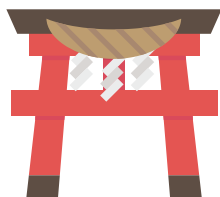
生き物の多様性が失われる



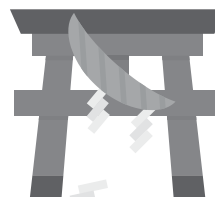
美しい風景が癒し・安らぎを与える



田が荒廃することにより
美しい風景が維持されなくなる



その地域の祭礼・風習を伝承する基盤となる



地域に伝わる祭礼・風習が消滅する

棚田においてコメ作りをすることは、棚田の「多面的機能」を発揮することにつながります。

CHAPTER 03

久留女木の棚田

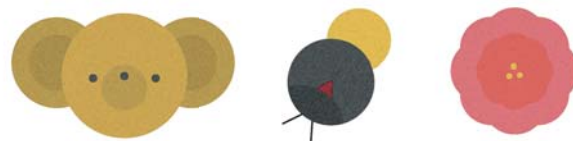


久留女木の棚田は、浜松市北区引佐町の北東部、標高 250m の山間に位置します。

総面積 7.7ha、約 800 枚ある大規模な棚田です。国（農林水産省）の「日本の棚田百選」、県の「静岡県棚田等十選」にも選ばれており、美しい景色が広がっています。

また、2017 年度の NHK 大河ドラマ

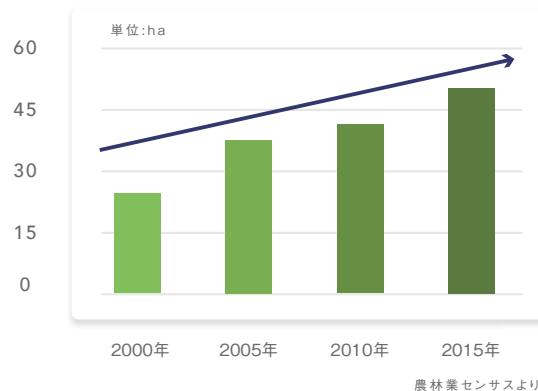
「おんな城主 直虎」の撮影場所にもなり、注目されています。



久留女木の棚田は、石積みと土でできています。円形や四角形の田など、多様な形の田が見られます。棚田には、四季折々の風景が展開します。カヤネズミなどの小動物から、ゲンジボタルなどの水生昆虫まで、多種多様な生き物が暮らす自然環境が保全されています。



鎮玉地区（久留女木の棚田を含む）の耕作放棄地面積の推移



しかし、現在、久留女木の棚田の 4 分の 3 は「耕作放棄地」になっています。

国（農林水産省）が発表している統計によると、（久留女木の棚田を含む）鎮玉地区では、2000 年から 15 年間で「耕作放棄地」が 2 倍以上増えました。今後も増加していくことが予想されます。

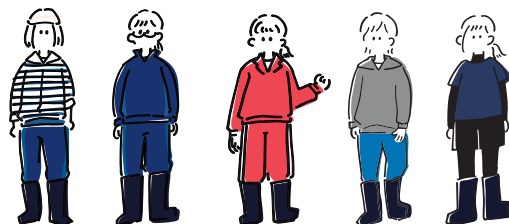
CHAPTER

04

引佐耕作隊

静岡文化芸術大学では、久留女木の棚田における耕作放棄地の問題を解決するため「引佐耕作隊」を結成しました。

静岡文化芸術大学では、久留女木の棚田における耕作放棄地の問題を解決するため、2016年4月、「引佐耕作隊」を結成しました。現在、5人（1年生3人、2年生1人、4年生1人）で構成されています。「引佐耕作隊」の活動目的は主に3つあります。



1

久留女木の棚田における耕作放棄地を水田として再生すること

耕作していない田は、雑草が生い茂り、田として使用できなくなります。この活動では、久留女木の棚田における「耕作放棄地」（500㎡）を耕し、コメ作りに取り組みます。

2

耕作放棄地で収穫したコメをパッケージ化・商品化すること

静岡文化芸術大学には、デザイン学部があります。そのデザインの力を活かし、購入したいと感じるパッケージを製作することは、商品に付加価値を付けることにつながります。

3

商品化したコメを販売すること

コメの販売によって得た利益は、今後の活動経費として使用します。コメの販売を通し、自分たちの活動資金を稼ぐことで、持続的な活動が可能になります。また、「耕作放棄地」を活かした、中山間地域におけるビジネスモデルを確立することにつながります。

2016年度は「棚田の恵」と名付け、パッケージ化・商品化しました。約150kgを収穫し、1袋を300g（2合）、432円（税込）としました。大学生協において442個を販売し、完売することができました。



TANADA NO MEGUMI
棚田の恵

- ・久留女木の棚田における「耕作放棄地」を再生すること
- ・「耕作放棄地」で収穫したコメをパッケージ化・商品化すること
- ・商品化したコメを販売すること

- ・棚田における「耕作放棄地」を再生すること
- ・中山間地域におけるビジネスモデルを確立すること



引佐耕作隊

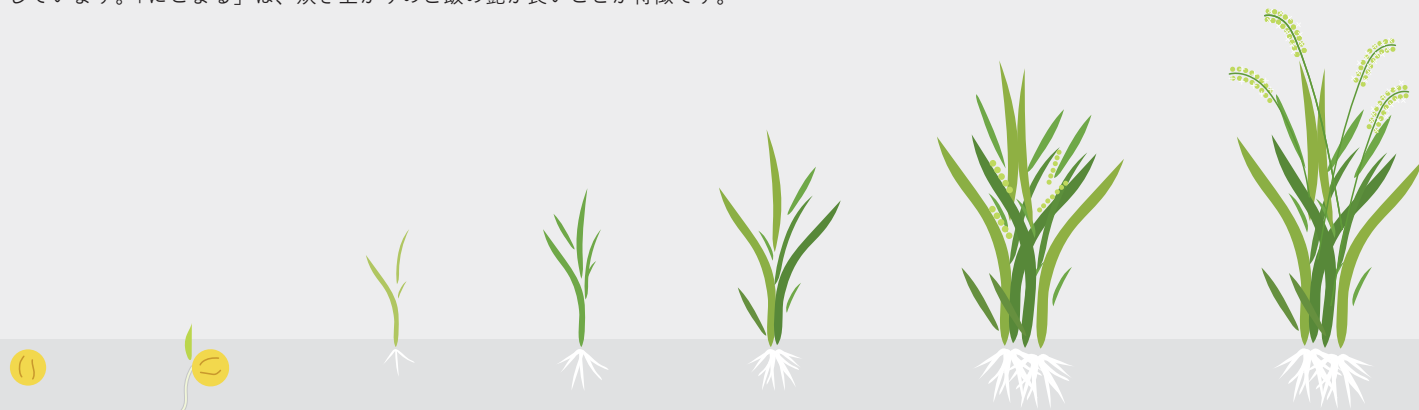
inasakousakutai

CHAPTER

05

年間スケジュール

「引佐耕作隊」では、高温でも品質が良好なコメの品種「にこまる」を栽培しています。「にこまる」は、炊き上がりのご飯の艶が良いことが特徴です。



4 april 田おこし
5 may 代かき
6 june 田植え
7 july 除草
8 august 除草
9 september

4月：田起こし



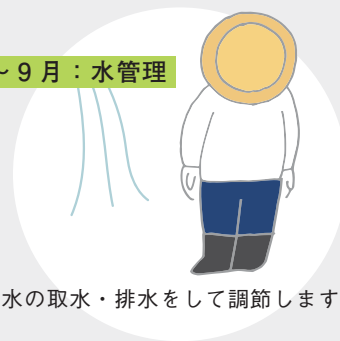
…乾いた田の土を掘り起こして
細かく碎きます

6月：田植え



…機械を使わず手作業で苗を植えます

7月～9月：水管理



…水の取水・排水をして調節します

5月：代かき



…田に水を入れて
土を碎いてならします

7月～9月：除草



…田や畦の草取りをします



10

november

12

january

2

march

october

稲刈り

11

販売

december

1

february

3

10月：脱穀



…稲穂からコメの粒を取り離します

12月：精米



…玄米に付いている外皮を取り除いて白米にします

10月：稲刈り・乾燥



…稲穂が垂れ、黄金色になると収穫です
…2週間ほど天日干しします

11月：パッケージ



…本学デザイン学部の学生を中心に製作します

12月：販売



…大学の生協や市内の商業施設で販売します

CHAPTER

06

メンバー紹介



鈴木 晴香

HARUKA
SUZUKI

文化政策学部
文化政策学科
2年生



鈴木 まこ

MAKO
SUZUKI

文化政策学部
芸術文化学科
1年生

なぜ「引佐耕作隊」の活動に参加したの？

「引佐耕作隊」の活動目的が、「コメ作り」を通し、「耕作放棄地の再生」と「自主財源確保」を図るものだからです。この活動では、耕作放棄地を耕し、コメを作り、パッケージを付けて販売します。耕作放棄地を放置したままでは、何の価値も生まれませんが、パッケージ化して販売することで、貨幣という1つの価値を生み出すことができます。この行為を通し、中山間地域には大きな価値が存在することを示すことができると思います。同時に、「耕作放棄地を再生する」ことで、新たなビジネスモデルを確立できたかと思っています。

この活動で大変なことは？

最も大変だと思うことは、田の水の管理です。6月の始めは雨が少なく、田に水を引いても、すぐに干上がってしまい水が溜まりませんでした。数日後、まとまった雨が降り、田の水が溜まったのですが、今度は水が多すぎて水を抜く作業をしなければなりません。「田に水を入れ、漏れないようにすること」「水が多すぎたら適切な排水をすること」はコメ作りの基本ですが、本当に難しいと思いました。来年度は、水の管理を徹底し、より多くのコメを収穫したいです！

やりがいや楽しいことは？

最も楽しいと感じることは、地元農家の方とお話することです。地元農家の方は、農機具の使い方や作業の仕方について教えてください。加えて、昔この地域であった出来事や、久留女木の祭りのことなどについてもお話ししてください。ある地域に行き、地元の方に直接お話を伺うことでしか、分からないことがあると思います。また、この経験を通し、新しいものの見方や考え方を得ることができると思います。

ご飯が大好きなので、お米作りの過程に興味がありました。田植えや収穫の体験だけでなく、今じゃなくてもやりたい時にそういった催しに参加すれば済む話です。「引佐耕作隊」では、お米作りをするだけでなく、作ったお米を商品化して販売します。学生のうちにそういった経験ができることは貴重だと思いましたし、約一年にわたる活動なので、やりたいと思った時にそう簡単にできることではないと思ったからです。あとは単純に、自分たちで作ったお米を食べてみたいという気持ちからです。

早起きです。寝起きがとても悪いので、集合時間が朝早い日の前日は「寝坊したらどうしよう…」とドキドキしながら布団に入ります。最近は慣れてきて、四月に比べてスムーズに起きられるようになりました。ここで油断して寝坊する…なんてことがないよう、気をつけます。それと夏は暑いです。長袖長ズボンでの作業になるので、天気の良い日は汗をたくさんかきます。早起きして疲れ果てて家に帰るので、夜はぐっすり眠ることができています。

道具の使い方や効率の良い作業の手順など、農業には知恵や工夫がたくさんつまっていることに気がつき、面白いと思いました。また、カエルの卵を手ですくったり、チクチクした植物に触ったりとはじめてのことばかりで新鮮です。川合淵まつり（地域のお祭り）で、地元の人々によって支えられている伝統文化や催し物の様子を見学させていただいたことは、自分が芸術文化学科で何を学びたいのかをより意識するきっかけにもなりました。芸文で一番草刈りが上手な学生を目指して、これからの作業もがんばります。



中村 美咲

MISAKI
NAKAMURA

デザイン学部
デザイン学科
1年生



中野 七海

NANAKI
NAKANO

文化政策学部
文化政策学科
1年生

なぜ「引佐耕作隊」の活動に参加したの？

小学生の時に少しでもお米作りに参加したことがあったので興味を持ち参加しようと思いました。また、活動の詳しい内容を教えてもらった際に、中山間地域の問題解決などの文化政策学科の領域とパッケージデザインなどのデザインの領域を合わせることでお米の生産から販売までの循環ができることを知り、静岡文化芸術大学にしかできない活動だなと思い参加を決めました。

この活動で大変なことは？

お米作りを一から真剣に作ることは初めてだったので、手順や道具の使い方などわからないことが沢山あり、慣れない道具を扱うのは大変でした。作業工程では水入れが一番大変でした。なかなか雨が降らず田んぼに水がたまらない状態が続いたので、田植えができるか不安でした。また、私は中山間地域についてまだ全く知識がないので、この活動をするにあたりもっと勉強して色々な考え方を身につけたいと思っています。あとは早起きが大変です（笑）

やりがいや楽しいことは？

毎週の活動は大変ですが、一緒に作業をする仲間がいるのでみんな頑張っているから私も頑張ろうと思うし、いいチームワークでできているので活動全体がとても楽しいです。最初の固まった土の状態から水が入って苗が植えてある状態に行き着いた時は、風が吹いて水面が揺れている田んぼがすごく綺麗だったのとひと段落ついたこともあり、すごく嬉しかったし参加して良かったなと思いました。久留女木のお祭りなどにも参加させて頂いたし、この活動を通して得た体験が沢山あり、とてもやりがいを感じています。

最初はゼミ生はみんな参加ということで始めましたが、今はなぜ船戸ゼミが「引佐耕作隊」をやるのかよくわかるようになりました。中山間地域と農業の問題はきっても切り離せません。自ら農業を実践することで、地域の方々にビジネスモデルを見せたり、私たちの本気を見せたりすることが大事なのです。実際、調査の時に地域の方と農業の話ができると始めてよかったなと思います。

私は本格的な農作業を今までやったことがありませんでした。農作業がどれだけ大変なのか、どうやって米ができていくのか、どんな肥料が必要なのか全くわからなかったです。4ヶ月がすぎ、今は少しずつですがそのような知識・経験を自分のものにすることができつつあります。農業は頭を使い知識を活用しながら、体をフル稼働させなくてははいけません。毎週毎週その農業の大変さを実感しています。また、私はカエルが大の苦手なので、田んぼに行くたび叫びながら作業してしまいます。来年までに触れるくらいになり、カエルを好きになりたいです。

いつか自分たちの作ったお米をおいしく食べてくれる人がいると考えるととてもやりがいを感じます。参加しだした頃ときは、炎天下で作業するのが嫌だなと思っていました。しかし、今はできた真っ白なお米、食べた人の笑顔を想像しながらの作業がとても楽しいです。また、「引佐耕作隊」のメンバーはみなやる気と情熱に溢れた素晴らしい方々です。「引佐耕作隊」に加わることで自分の居場所を見つけることができました。メンバーと協力し、地域の方々に知恵を借りながら、今後も活動を通して自分を成長させていきたいです。

CHAPTER

07

—— 地域住民との関わり



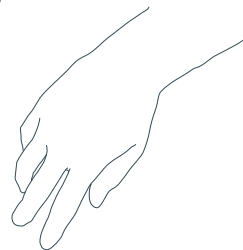
久留女木の棚田は、東久留女木と西久留女木に住む人たちによって耕作されています。

困った時には 手助け してくれます



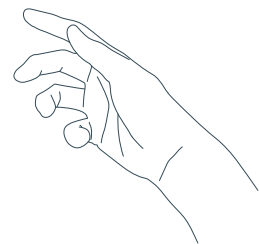
仲井政雄さん

現在、「引佐耕作隊」が耕作している棚田（500㎡）の地権者は、東久留女木に住む仲井政雄さんです。政雄さんには、コメ作りするうえでの諸々の作業や技術を教えていただいています。



西本有一さん

次に、西久留女木に住む、西本有一さんにもお世話になっています。有一さんも、久留女木の棚田でコメ作りに励んできた地元農家です。有一さんからも、コメ作りについての作業や技術を教えていただいています。



鈴木一記さん

最後に、久留女木の近くに住む、鈴木一記さんです。一記さんは、この棚田の美しさに魅せられ、2004年、現地に移住してきた方です。久留女木でのコメ作りは、すでに2000年から始めています。現在、地元農家と都市部の住民をつなぐ「久留女木竜宮小僧の会」の事務局長として忙しいなか、コメ作りについての作業や技術だけでなく、久留女木の歴史や文化についても教えていただいています。



「引佐耕作隊」のコメ作りは、久留女木に住む人たちの協力によって成り立っています。今後も、地元の人たちとの「関係」を大切しながら、コメ作りに励んでいきます。